

## 東京弁護士会百五十年史プロジェクトチーム始まりました

東京弁護士会百五十年史プロジェクトチーム 座長 山岸 憲司 (25 期)

同 事務局長 堂野 達之 (52 期)

### 未来を拓く過去との対話を

東京弁護士会百五十年史プロジェクトチーム  
座長 山岸 憲司 (25 期)

この数十年の社会の変容は著しく、弁護士及び弁護士会を取り巻く時代環境の変化も激しい。我々は、その中で、司法をめぐる困難な課題に対処し、大いなる熱量をもって取り組み、社会的使命を果たしてきた。司法制度改革にあっては、制度設計の議論をリードし、制度の運営には担い手となって押し進めてきた。

しかしながら、「歴史とは、現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話である」(E・H・カー)と言われるように、我々は、歴史的事実を整理分析し、過去に目指したことを現在の価値観でも評価し、足らざるは補い、改善すべきは改善していかなければならない。それによって、より良い司法の構築、なすべき業務改革の実現に向けて新たな歴史を紡いでいくことができれば幸いである。

### 「東京弁護士会百五十年史」を作ってみませんか

東京弁護士会百五十年史プロジェクトチーム  
事務局長 堂野 達之 (52 期)

#### 1 創立150周年を迎えるにあたって

当会は、その前身である東京代言人組合が1880(明治13)年6月29日の創立総会で設立され、2030(令和12)年6月29日に創立150周年を迎えます。

150年という人生約2周分の長い年月の間に、大正デモクラシー、アジア・太平洋戦争、日本国憲法制定、高度経済成長、バブル崩壊、大震災、新型コロナ禍等々と、我

が国の政治・社会・経済のあり様は変化し続け、司法制度や弁護士制度も大きな変革を遂げてきました。当会も、全国最大の弁護士会として、会員一人一人が努力や工夫を重ねて、基本的人権の擁護と社会正義の実現のために様々な活動を展開し、対外的な意見表明を重ね、喜怒哀楽を伴いながら、歴史を紡いできました。

創立150周年を迎えるにあたり、当会150年の歴史を記す「東京弁護士会百五十年史」を発刊すべく、2023(令和5)年11月に「東京弁護士会百五十年史プロジェクトチーム」(以下「当PT」といいます)が発足し、活動を開始しています。

#### 2 「東京弁護士会百年史」の後継として

当会の創立百周年(1983(昭和58)年)の際には、当会が「東京弁護士会百年史」(以下「百年史」といいます)を発刊しました。

「百年史」は本文だけで1100頁弱という大著で、会員の先輩方が分担して執筆しておられます。司法制度の変革や政治・社会・経済のうねりの中で、人権擁護活動や弁護士自治獲得など、各時代で弁護士会や弁護士がどのように考え、議論し、行動してきたか、自由闊達に生き生きと描かれています。また、組織や規程、人事も含めた当時の詳細な事実が入念に調査されており、資料としても価値が高いと言えます。

この「百年史」をベースに、司法改革総合センターの東京弁護士会歴史研究会(通称「REKIKEN」)は、2021年11月号からLIBRA誌上で「東弁今昔物語～150周年を目指して」を連載しており、多くの会員から好評価が寄せられています。当PTは、主に創立101年から150年までを対象にして、「百年史」を継承しつつ、その「百年史」を超える「百五十年史」を作っていくことを目指しています。

#### 3 当会の歴史を残し、DNAを探究し、未来へ向かう

当会は、人権擁護や司法アクセス向上のために会員各自

や各委員会が個性を活かした多様な活動を展開し、節目節目で重大なテーマについて対外的な意見を発信し、ときには議論を喚起し、市民の権利を護りながら安心を与え、社会からの信頼を得てきました。

創立150周年を機に、各会員の悩みや苦勞、喜びなどの生き様や、何を考え何を議論したか、社会とどのような相互作用があったかなど、多角的な観点から我々の活動の詳細な記録を残し、次世代の会員へ着実に引き継ぐことにより、会や市民にも確かな形を示していきたいです。

そして、これまでの当会の歴史の蓄積を総括し、弁護士そして弁護士会の変わらない、変えてはならない本質、DNAを探究しつつ、これらを踏まえ、これからの社会や市民に向けて我々が何をなすべきかの未来を展望していければと考えています。

全体主義社会のディストピアを描いたジョージ・オーウェルの「1984年」では、主人公が勤める「真理省」が、日々、歴史記録をひたすらに改ざんしていました。「1984年」の世界とは真逆に、個人の尊厳や多様性、寛容を重んじる我々弁護士が、我々自身の歴史を記録として残していくことは、後世のための責務であると言えるでしょう。

#### 4 東京弁護士会百五十年史プロジェクトチームの活動

当PTでは、主に三つの活動を行っています。

一つ目は、「百五十年史」本体の編纂です。手始めに過去の東弁新聞やLIBRA等を紐解きつつ（これらを読み出すと、懐かしい写真や記事が満載で、色々と感慨にふけてしまい、他の業務が手につかなくなる面もあります・・・）年表を手分けして作成し、全体的な構想を練っているところです。現時点では、通史的なものと、各種委員会活動等の分野・テーマごとのものと、二段構えという方向性が出ています。

二つ目は、先進会員へのインタビュー企画です。REKIKENと連携しながら、弁護士としての生き様や経験や活動などをうかがい、動画等で保存する取り組みをして



います。既に何名かの先進会員からはインタビュー済みです。先進会員の皆さんは、それぞれに個性豊かで、様々な体験を重ねて独自の見識を持っておられます。インタビューアとして生で貴重な話を伺えるのは大変勉強になると好評です。また、各会派に協力をお願いすることも検討していきます。

三つ目は、史料室の設置の準備です。現在、弁護士会館4階にある旧喫煙室が空いています。この部屋を史料室として活用すべく、当PTで準備を進めています。展示すべき年表や写真パネルの作成、法服や看板などの「お宝」の発掘、後世に残したい資料・書籍・文献の収集などを検討中です。文字データの「百年史」と立体的な「史料室」が組み合わさることで、当会の歴史を会員や市民へより深く伝えることができます。

#### 5 東京弁護士会百五十年史プロジェクトチームへ参加してみませんか

当PTは始動したばかりです。「百五十年史」の編集、先進会員へのインタビュー、史料室の準備等、関心のある方は是非ご参加ください。当PTは基本的に「百五十年史」の編集を担いますが、「百五十年史」の記事自体を執筆したいという方も大歓迎ですし、当会の歴史を残していくための企画のアイデアをお持ちの方もお待ちしております。当PTに興味のある方は、司法調査課（03-3581-2207）にご連絡ください。